

6次産業化の実践モデル

～農林漁業成長産業化ファンドの活用に向けたQ&A集～

6次産業化における
【ファンド活用のノウハウ】
を解説します！



事例から見る実践ポイント

● ファンドを活用した実践事例〈農産物（加工）〉



農産物の実践事例（加工）

こと京野菜株式会社

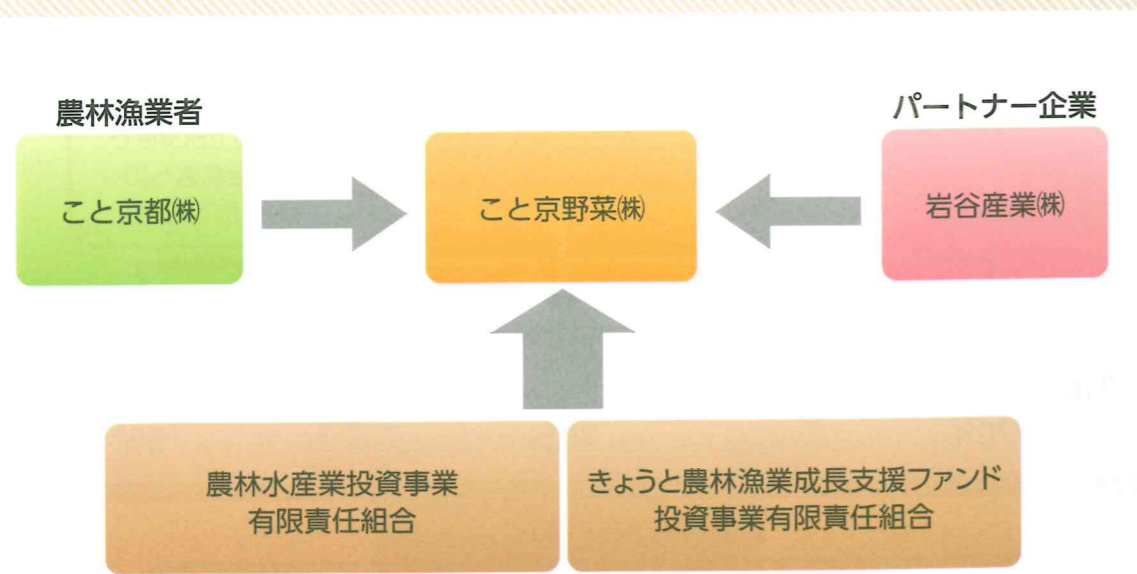
概要・背景

九条ねぎの6次産業化に取り組んでいること京都株が新しい事業として冷凍加工事業に取り組むべく、岩谷産業株の「フレッシュ・アイ製法」を導入しようとして検討していた中で、より関係性を強化するために2016年にこと京野菜株を設立しました。

ファンドを活用した目的・メリット

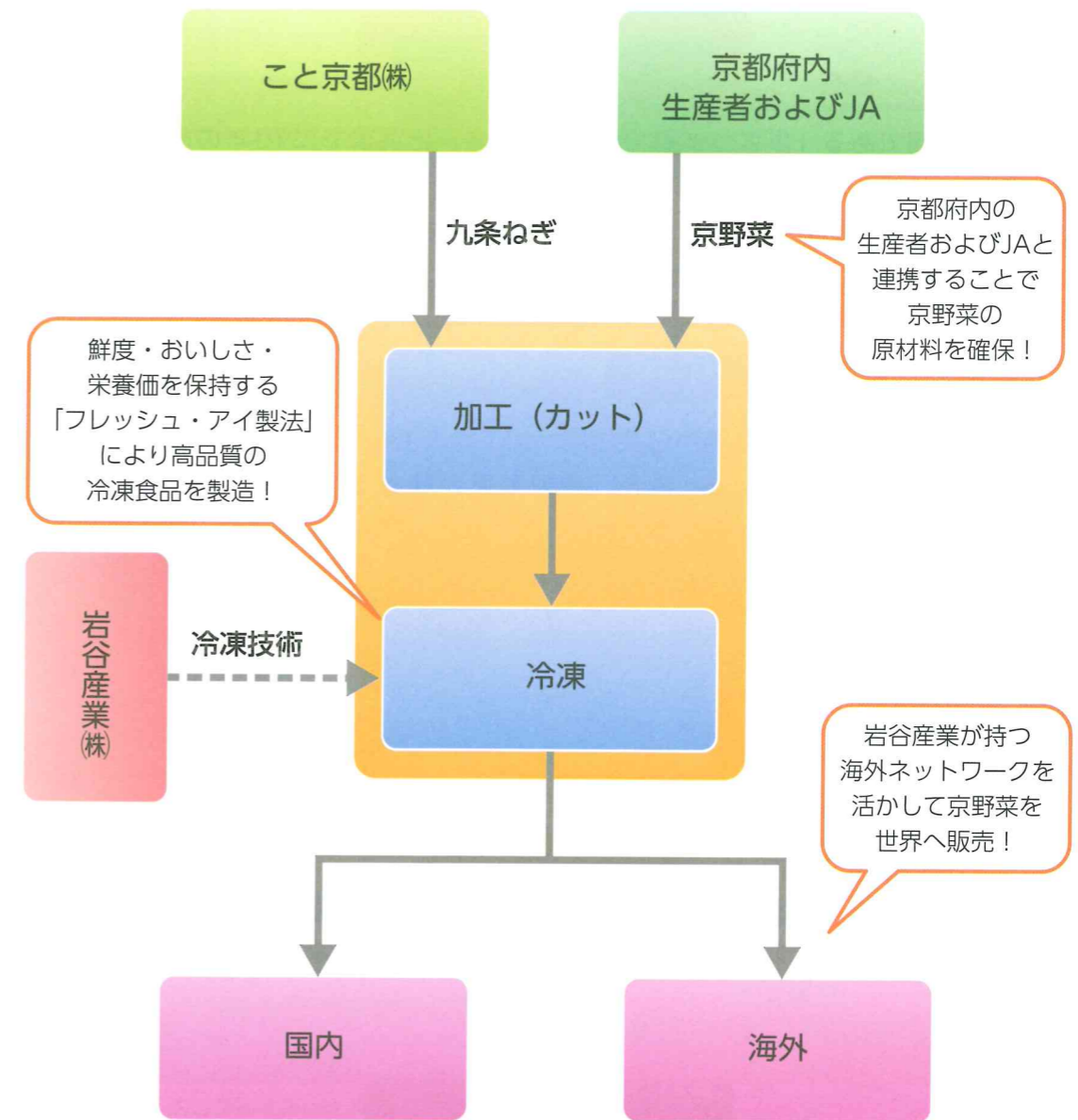
今後、国産野菜の冷凍食品の需要が伸びていくと考え、冷凍事業への進出を検討していました。農林中央金庫から紹介された岩谷産業株の冷凍技術を活用した冷凍工場を整備するための資金が必要でした。また、近畿第1号、京都府第1号として出資を受けたことにより、京野菜の冷凍加工事業としてメディアからの注目も集まり、信用度も高まりました。

出資スキーム



農林漁業者として九条ねぎの生産から販売までを行うこと京都株が出資し、パートナー企業として「フレッシュ・アイ製法」技術を持つ岩谷産業株が出資をして設立されたこと京野菜株はA-FIVEの出資スキームの模範的なモデルです。

ビジネスモデル



京野菜の九条ねぎ生産者のネットワークを構築していること京都株と京都府内の生産者及びJAが連携することで安定して京野菜を調達することが可能となっています。またパートナー企業の岩谷産業株の「フレッシュ・アイ製法」を活用するだけでなく、海外のネットワークを活用することで冷凍京野菜を海外へ販売していきます。

